

報告

乳幼児の誤飲に注意！！

～実験と小児科の先生のお話から学びましょう～

本日の学習会は、「コイン形・ボタン形電池の誤飲の危険性について、周知徹底や消費者への効果的な普及啓発など」東京都からの要望を受けて、小児科の先生の話と実験からより具体的に危険性を学び、理解を深め、子供の事故予防につながればと考え開催しました。



日時: 2016年5月20日(金) 10:30~12:30
会場: 東京都消費生活総合センター16階 学習室A
講師: 山中龍宏先生 小児科医 緑園こどもクリニック院長
参加者: 72名 他に乳幼児16名(0歳児:8名、1歳児:6名、2歳児:2名)
主催: 東京消費者団体連絡センター



司会:主婦連合会
木村たまよ

東京都挨拶

東京都では商品やサービスの危害危険防止の取組みとして、学識経験者、消費者、事業者が集まり「東京都商品等安全対策協議会」を開催し、商品の改善や安全基準の策定など具体的で実効性のある安全対策の提案を行っています。昨年度は協議会を受けて「コイン形電池 ボタン形電池を子供にさわらせないで！」リーフレットを作成し、消費者団体のほか、子育て支援団体、都内保育園、保健センター等に配布しました。子どもの事故防止の取組みがさらに続くよう願っております。



東京都生活文化局
消費生活部生活安全課
吉本圭子さん

講演:子どもの事故は予防できる

子どもの事故に対する考え方
Accident(アクシデント) から Injury(インジャリー) へ

以前は「事故」
Accident
・予測できない
・避けられない事象



最近「傷害」
Injury
・予測できる
・予防可能な事象



小児科医 山中龍宏さん

子どもの事故は、『うちの子には起こるはずがない』はありません。誰にでも起こります。



乳児とは0歳児。幼児とは1歳～6歳未満児。

誤飲とは、食べ物以外のものが誤って胃に入ること
誤嚥(ごえん)とは、気管(空気の通り道)に入ること

子どもは5-6カ月で寝返り、7-8カ月でハイハイ、10カ月でつかまり立ち。6カ月から誤飲が始まります。

子どもは頭が重いので、浴槽に落ちやすいです。事故を防ぐには水をためない。

子どもの事故で発生頻度が多い事例

- 落ちた
- 転んだ
- やけど
- 誤飲
- ぶつかった
- はさまれた
- おぼれた 等

やけどは、10カ月～1歳半に起こります。熱いことが理解できるのは4歳児からです。

誤飲は、子どもの発達過程(手でつかんだものを口に入れる)で必ず起こる摂取事故ですが、予防することができます。

誤飲を防ぐには



日本中毒情報センターへの相談件数は、毎年およそ 35000 件。コイン電池の相談件数は約 200 件。

誤飲は子どもに限ったことではありません。認知症の方やペットも誤飲します。

★コイン電池
★とがった物
★揮発性の物 (ガソリン等)
を飲み込んだ場合は、吐かせてはいけません。

*3歳児が口を開けた時の最大口径は、約 39mm、のどの奥までは約 51mm。

*大人の親指と人差し指で輪を作り、そこを通るものは誤飲の危険性があります。

*母子手帳の一番後ろのページに穴が開いているものもあります。

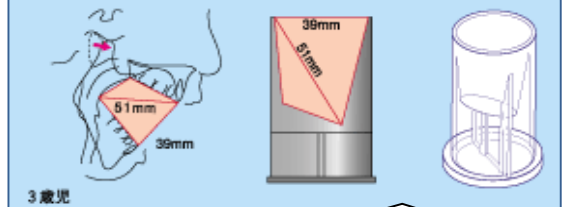
乳幼児と同じ部屋に居ても、よそ見、テレビ、居眠り、電話などしている間に事故は起こります。

危険な物を床やたたみの上などに置かず子どもの手の届かない高いところ(1m以上)に置く、入れ物のふたが開かないようにすることで事故を予防できます。

3歳になるとイスを持ってきて取る可能性があります。

誤飲チェッカー

(社)日本家族計画協会HPより



一般社団法人日本家族計画協会で購入できます。

コイン電池を誤飲したらどうなるか 実験で確かめました



魚肉ソーセージにコイン形電池をはさんで5分経過したもの

コイン電池の誤飲は 緊急事態！！

コイン電池は乾いている時には電流は流れません。しかし、唾液や粘膜などで濡れると電流が流れ出します。

乳幼児が誤飲して食道に引っかかると、周りが急速にただれてしまいます。ほっておくと食道に穴があき、大動脈までただれて大出血し、死に至ります。

コイン電池は直径が大きく、起電力も高くなっており、とても危険です。大至急大きな病院での処置が必要になります。

コイン電池が胃まで行った場合は、3日くらい経つと腸に移動してうんちから出てくる場合が多いのですが経過観察が必要です。



子どもを危険から守るためには、製品や環境を変えること、人々の意識を変えることです。事故に遭わない環境をつくること、変えられるものを変えること(商品の改善など)が求められます。

参加者に「ヒヤリハット(ひやりとしたこと、はっとしたこと)」を聞きました

家の中で

- ・お財布から小銭を出し、口に入れようとしていた。
- ・化粧品のポンプを押せるようになり舐めていた。

公園で

- ・動いているブランコに近づいてしまった。

おもちゃで

- ・人形遊びをしている際に、人形の靴や小物などを口元に持っていった。
- ・まがたま型のビーズを耳に入れてしまった。

アンケート結果(感想 抜粋)

アンケート回収 59枚

大変良かった 71.2%、良かった 25.4%

*誤飲は必ず起こるものという視点を持つことが予防につながる事が理解できた。

*ボタン電池の危険なことを知って驚いた。周りの方にも知らせていきたい。

*具体的な対処法を分かりやすく教えてくださいました。

*製品の改善が必要という考え方が画期的と思った。

*まだ妊娠中ですが、これから子どもの生活スペースを作るにあたり、注意しなければいけないと改めて思いました。

まとめ

誤飲を防ぐには親の注意も大切ですが製品を改善することもひとつです。具体的な事故事例を近くの消費生活センターや188に情報提供することにより製品の改善につながります。今回の学習会には乳幼児を連れた若いお母さんの姿がたくさんありましたが、今後の子どもの事故の予防につながればと思います。